

ネットワーク時代に 求められる「e-倫理」

企業行動に対する社会の目が一層厳しくなり、企業倫理の確立は、今日の企業にとって極めて重要な課題になっている。

● 「ビジネス・コンダクト・ガイドライン(BCG)」

IBMは、全世界一六〇カ国以上で事業を展開しており、高い企業倫理に従って公正な事業活動を行なうために、世界共通の企業倫理基準を「ビジネス・コンダクト・ガイドライン(BCG)」として策定している。企業として信頼を得るために、全世界のIBM社員はBCGを遵守しなければならぬ。倫理上および法律上の問題については、子会社を含むすべての社員は、IBMの基本的な価値観と理念に従って解決しなければならない。

● 「倫理委員会」の設立

日本IBMでは、昨今の企業環境の急速な変化と、日本的な商習慣や職場環境にさらに的確に対応するため、一九九八年十月に「倫理委員会」を社内設立した。この組織は、法務や人事、営業部門等の役員・社員で構成され、社員に人格の尊重や規律の徹底といった行動規範を改めて認識させるとともに、セクシユアル・ハラスメントその他の不祥事、不正経理処理等の問題について、個別にガイドラインを発行する等の活動を行なうものである。

グローバルなネットワーク社会が進展する中で、日本IBMでは、ネットワークを前提とした革新的なビジネスである「e-ビジネス」をお客様にご提案している。また自

らも、在宅勤務制度(e-ワーク)やモバイル・オフィスなど、これからのネットワーク時代に適応させた柔軟な勤務制度を推進している。

● 「e-ethics (e-倫理)」

情報ネットワーク社会の発展により、瞬時に、広範に、かつ容易に情報を伝達できるようになった。しかし一方では、利用の仕方を誤れば、不適切な情報が瞬く間に世界中に流布したり、機密漏洩やインサイダー取引などの不法行為が容易に行なわれるなど、ビジネスや社会生活にこれまでになかった問題をひきおこす可能性がでてきた。

そのため当社の倫理委員会では、ネットワーク時代の新たな行動規範「e-ethics (e-倫理)」を策定した。e-ethicsは、社員一人ひとりの良識と節度ある行動の下に、e-ワークなどの新しい働き方を確立するための規範であり、品位のあるコミュニケーションや、適切な表現、情報の発信・アクセスにおける公私の峻別、情報の機密保持の厳守、他人のプライバシーや個人情報、著作権の尊重などを明記している。

特にインターネットにかかわる企業は、自らの行動に対して、e-ビジネスの健全な発展のための大きな責務を負っている。日本IBMでは、この新しい行動規範を、e-ビジネスを推進する企業で働くプロフェッショナルのための職業倫理として十分認識し、社員自ら率先して行動するように定めているのである。(日本アイ・ビー・エム広報)